

2026 年度 社会学科

小 論 文

〔自己推薦 A O (A)〕 14-02

注 意

1. 監督者の合図があるまで問題冊子は開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙のきめられた箇所に記入してください。

急速に進化し続けているAIが大学教育に及ぼす影響について論じている以下の文章を読み、後の問いに答えなさい。

本論に入る前に、このChatGPTと大学教育について、少しだけ脇道にそれた、しかし、後の議論にも関係してくるサブテーマについて議論をしてみたいと思います。それは、今後このようなAIによる文章の生成がより広く情報を集め、高度化することが大学教育に及ぼす影響についてです。このテーマ自体、大学の大衆化とも関連しそうな問題です。

大学の授業で課されるレポートの執筆において、このようにChatGPTを使って解答する学生が多くなっていくことが予想されます。情報量が今以上に増え、かつより多角的な議論もAIの学習に取り込まれることで、たとえば来年の今頃同じような質問をChatGPTにしたら、違った（あるいはすぐれた）回答が出てくるかもしれません。日々進化し続けるこのAIが大学教育に及ぼす影響は膨大なものになると予感されます。アメリカの大学の中には学生がレポート執筆にChatGPTを利用することを禁止した大学もあると言います。

私が所属していたオックスフォード大学でも、2022年11月にChatGPTが出現して以来、その利用をめぐる多くの議論が飛び交いました。その翌年の2月初旬には全学生宛に、許可された場合を除き、成績評価の対象となる試験やレポートなどの作成に学生がChatGPTを使った場合には処罰の対象となるというメッセージが送られました。他方、教師たちがこうした新しいツールをどのように教育に生かすか。それについてのワークショップも開かれました。英語でのChatGPTの性能が高いいだけに、その影響をめぐる議論も英語圏でより進んでいるようです。その利用をまったく禁止してしまうのがよいのか。それともその賢い使い方を含めて、大学教育の中で生かしていく方向がよいのか。このように世界的規模で生じている大きな変化は避けることはできませんので、規制するだけではすまない問題だと思います。大学で何を学ぶべきか。大学自体の存在理由にも関わってくるでしょう。

もちろん、今後のAI技術の進化は予想できないスピードで進んでいくでしょう。そのとき、よくある指摘ではありますが、人間にしかできないことは何か、という問題が必ずその進化に応じて出てきます。情報を扱う多くの仕事をAIに任せる時代がすでに到来し

ているとしても、AIによる過去の「情報」の組み合わせと、私たち人間が何千年と行ってきた「知識」の生産ははたして同じことなのか。大学の使命ともいえる知識の生産と再生産という仕事の意義は、その進化に応じてどのように変えていけばいいのか。こうした課題がすでに現実のものとなっていることを、たかだかいくつかの質問をChatGPTに投げかけてみた経験から感じました。

ただ同時に思ったのは、質問によっては不正確な情報が混じってしまう可能性や、回答の優先順位については必ずしも重要度に応じて並んでいるわけではないという印象をどう受け止めるかです。情報の正確さや重要度の判定には、読み手の知識が不可欠です。どんな質問をするかについても同様です。とくに追加の質問の仕方によって回答に変化が出てくるところを見れば、質問の質とその並べ方の判断は重要なポイントになります。ChatGPTはICTの環境さえあれば、誰にでも手の届くところにあります。別に難しい入学試験を突破することがなくても、そこにアクセスすることはできます。ただ、それをどのように使いこなせるかということについては、まだまだ私たち人間の側の「学習」も不可欠です。ただし、その学習の中身＝知識をどのように考え直すのかという課題は、確実に私たちに突きつけられています。この大きなテーマについては、本書でも今後触れることになると思います。

（出典：荻谷剛彦『日本人の思考——ニッポンの大学教育から習性を読みとく』筑摩書房，2025年，29-32頁）

問い 本文では、大学教育におけるChatGPTの利用をめぐる議論が示されています。英語圏における議論とはどのようなものか、その議論に対して筆者はどのような立場であるかを説明してください。そのうえで、この議論についてあなた自身の見解を論じてください。その際、次の2点をできるだけ意識して記述してください。a) 本文の内容と関連づけながら述べること、b) 本文では言及されていない独自の情報（自分の知識や経験など）を根拠として具体的に示しながら述べること。